

■まちづくりのテーマの方針とその実現に向けた取組（案）

(1) テーマ「私らしい暮らし」

テーマ	テーマの目標	「私らしい暮らし」とは (ストーリー)	大柱	小柱	主な取組
私らしい暮らし	自然と利便性が共存するコンパクトな住宅都市であることを活かし、1人ひとりがいきいきと暮らせるまちを目指します。	<p>都心近郊の都市でありながら、武蔵野の台地や河川に囲まれた豊かな自然が残る、多様な住環境は朝霞市の魅力の一つです。</p> <p><b>【大柱1】</b> 市内には、利便性の高い市街地や自然環境を活かした住環境など、それぞれ特色のある地域が共存しており、選択できる住環境の多様性を伸ばしていきます。</p> <p><b>【大柱2】</b> 多様な文化に触れたり、利便性・快適性を高めたりして暮らしの質（QoL=Quality of Life）を高めるため、朝霞市民全体のためのサービスと地域それぞれの日常生活を支えるサービスの両面から、それらを提供する都市機能の充実を図っていきます。また、都市機能をスクラップ&amp;ビルドで設けるのではなく、既存のストックを活用して賢く確保していきます。</p> <p><b>【大柱3】</b> 私らしい暮らしを実現するためには、住まいやその周辺環境だけでなく、他者と触れ会える場や自分らしくいられる場、自分らしく輝ける機会も必要であることから、多様な方々と交流できる場や居心地よく過ごせる空間、活躍できる機会を創出していきます。</p>	<p><b>【大柱1】</b> 市街地と自然をつなぐ、選択肢のある住環境を整える</p>	<p>小柱1 歩いて暮らせる駅近な地域づくり</p> <p>小柱2 駅とみどりをつなぐ、公共交通で移動しやすい地域づくり</p> <p>小柱3 利便性と自然が調和したゆとりのある地域づくり</p> <p>小柱4 水とみどりがあふれる穏やかな地域づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかに多様な世代が暮らせる住宅の確保</li> <li>・マイカーに依存しない移動手段</li> <li>・騒音に悩まない駅前周辺 等</li> <li>・交通利便性の高いバス路線沿線</li> <li>・選択できる移動手段 等</li> <li>・住宅密集地における生活道路の拡幅</li> <li>・地区計画を活用したまちづくり</li> <li>・景観協定</li> <li>・建築協定</li> <li>・公園の整備 等</li> <li>・公共交通空白地区の解消</li> <li>・内間木公園の改修</li> <li>・市街化調整区域での無秩序な開発抑制 等</li> </ul>
			<p><b>【大柱2】</b> 暮らしを支える生活サービスの質を高める</p>	<p>小柱1 市民サービスを支える都市機能の充実</p> <p>小柱2 地域生活サービスを支える都市機能の充実</p> <p>小柱3 既存の土地や建物を活用した柔軟な機能確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市機能の集積（市内）</li> <li>・利便性の高い公共施設の集約化</li> <li>・都市機能補完ゾーン（基地跡地、黒目川周辺、254 バイパス沿道）における取組の推進 等</li> <li>・地域ごとの都市機能の適正配置 等</li> <li>・既存ストックのリノベーション</li> <li>・空き家・空き店舗の利活用</li> <li>・公共施設の統廃合、転用 等</li> </ul>
			<p><b>【大柱3】</b> 自分らしくいられる場や活躍できる場をつくる</p>	<p>小柱1 オープンスペースの創出と利活用</p> <p>小柱2 私らしく働く場、活躍できる場の確保</p> <p>小柱3 共創による新たな価値の発掘</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流スペース等の整備</li> <li>・リノベーションによる新たな公共空間の創出</li> <li>・北朝霞駅西口ロータリー広場化整備</li> <li>・道路空間の利活用</li> <li>・公園や広場などの利活用（規制緩和）</li> <li>・公共空間利活用支援 等</li> <li>・コワーキングスペース等の確保</li> <li>・託児所の設置など働く環境の整備</li> <li>・ローカルビジネスを育てる場の創出 等</li> <li>・官民連携による共創の場（地域課題と人材・技術をマッチングする場）づくり 等</li> </ul>

(2) テーマ「にぎわい・活力」

テーマ	テーマの目標	「にぎわい・活力」とは (ストーリー)	大柱	小柱	主な取組
にぎわい・活力	四季折々のイベントが充実し笑顔が絶えないワクワクするまち、 鉄道駅や道路ネットワークを活かした活力のあるまちを目指します。	<p>人やモノや情報が集まり、にぎわいと交流の拠点づくりを進めることで、都市の魅力向上や産業の活性化を促進することにより、市民が誇れる朝霞市を目指します。</p> <p><b>【大柱1】</b> 市の中心拠点である駅周辺や商店街など、にぎわいが生まれやすい場所の活力を高めます。また、安全で楽しく歩きやすい歩行空間となるよう、ウォークアブルな空間の整備と活用を進めます。</p> <p><b>【大柱2】</b> 地元産業が活性化し、また、持続できる環境を確保することにより、にぎわいや活力の持続的創出を図ります。</p> <p><b>【大柱3】</b> 国道254号やバイパスの沿道などは流通の面での立地特性を活かし、大規模な工場跡地などは産業用地としての立地特性を活かして、新たな産業の誘致と育成を図ります。</p>	<b>【大柱1】 にぎわいと活力のある駅前拠点をつくる</b>	小柱1 朝霞駅周辺の活気あるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共空間の利活用</li> <li>・定期的な小規模なイベントの開催</li> <li>・官民連携の社会実験</li> <li>・イベント企画者の発掘・育成 等</li> </ul>
				小柱2 北朝霞駅・朝霞台駅周辺の活気あるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共空間の利活用</li> <li>・定期的な小規模なイベントの開催</li> <li>・官民連携の社会実験</li> <li>・朝霞台駅改修に伴う各駅広場の機能分担の向上</li> <li>・北朝霞駅西口ロータリーの広場化</li> <li>・地区計画による商業空間の創出 等</li> </ul>
				小柱3 誰もが楽しく歩ける空間の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区計画における壁面後退による歩行者空間の確保</li> <li>・駅周辺のポケットパークの整備</li> <li>・駅周辺の主要道の交通安全対策 等</li> </ul>
			<b>【大柱2】 安心して生産活動ができる環境を整える</b>	小柱1 工業系地域における、居住環境にも配慮した生産環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区計画による建物用途の制限</li> <li>・緩衝緑地等の整備</li> <li>・用途地域の見直し 等</li> </ul>
				小柱2 企業と住民で共につくる地域経済の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と地元住民の交流支援</li> <li>・地域経済の発展 等</li> </ul>
			<b>【大柱3】 立地特性を活かして戦略的に産業を誘致・育成を図る</b>	小柱1 広域幹線道路沿道の特性を活かした産業用地の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道254号バイパス沿道の活性化</li> <li>・地区計画による適正な土地利用</li> <li>・沿道周辺の地区計画や区画整理の活用 等</li> </ul>
				小柱2 拠点機能を支える新たな産業機能の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模工場跡地の適正な利活用</li> <li>・魅力ある産業の誘致 等</li> </ul>

(3) テーマ「快適な移動」

テーマ	テーマの目標	「快適な移動」とは (ストーリー)	大柱	小柱	主な取組
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">快適な移動</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">安全で快適な移動環境のあるウォーカーフレンドなまちを目指します。 多様な交通手段でつながる、</p>	<p>快適な移動は、日常の用事や通勤通学などの人の移動と、物流や移送などモノの移動に分類できます。</p> <p><b>【大柱1】</b> 人とモノの移動どちらにも重要な幹線道路は、未整備区間の整備によるネットワークの充実を図るとともに、既存道路の改良を行い、交通流の円滑化を図ります。</p> <p><b>【大柱2】</b> 住宅都市である朝霞市では、身近な生活道路の安全性をさらに高めたり市街地内の物流や駐車需要を適切にコントロールすることにより、朝霞市に暮らす付加価値を高め、子どもや高齢者をはじめとする市民の暮らしを守ります。</p> <p><b>【大柱3】</b> 朝霞市のコンパクトな都市構造を活かし、多様な移動手段を確保することで、さらに生活の利便性や暮らしの質を高めます。</p>	<p><b>【大柱1】</b> まちの骨格となる幹線道路の交通流を円滑にする</p>	<p>小柱1 幹線道路の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画道路や主要幹線道路の整備</li> <li>・長期未整備都市計画道路の計画見直し 等</li> </ul>
			<p>小柱2 既存道路の改良</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存道路や橋梁の適切な維持管理</li> <li>・交通実態に合わせた道路や交差点の改良 等</li> </ul>	
			<p>小柱3 自転車で走りやすい道づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車専用通行帯等の自転車通行空間の整備 等</li> </ul>	
			<p><b>【大柱2】</b> 身近な生活道路の安全を守る</p>	<p>小柱1 安全に生活できる身近な道づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行空間の確保、生活道路整備、交通安全対策</li> <li>・面的な交通安全対策</li> <li>・自転車の乗り方のルール普及・啓発 等</li> </ul>
			<p>小柱2 こどもの未来を守る通学路づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路における安全対策</li> <li>・歩道橋の維持管理 等</li> </ul>	
			<p>小柱3 荷捌きと駐車場の適正化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流を支える荷捌きスペースの確保</li> <li>・駅周辺の駐輪場・駐車場の適正配置への誘導 等</li> </ul>	
			<p><b>【大柱3】</b> 自由な移動を支える</p>	<p>小柱1 どこに住んでいても自由に移動できる多彩な交通手段の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通の充実</li> <li>・路線バスの確保、維持</li> <li>・公共交通空白地区の解消</li> <li>・シェアサイクル等の目的地までのラストワンマイルを補う交通手段の確保</li> <li>・隣接する自治体との広域的な交通手段導入の検討 等</li> </ul>
			<p>小柱2 誰もがつまづかないで通れる道づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の段差解消（バリアフリー化）</li> <li>・河川沿いの道路の整備</li> <li>・ユニバーサルデザイン化 等</li> </ul>	
			<p>小柱3 人中心の歩きたくなる道づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかベンチの設置</li> <li>・ポケットパークの整備</li> <li>・日陰がある道の整備 等</li> </ul>	

(4) テーマ「持続可能」

テーマ	テーマの目標	「持続可能」とは(ストーリー)	大柱	小柱	主な取組
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">持続可能</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">未来の子どもたちに胸を張って残せる持続可能なまちを目指します。</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">みずとみどりのある朝霞らしい風景を守り、親しみ、</p>	<p>世界的な気候変動が進む中、都市としての対応が求められています。また、豊かなみずとみどりは朝霞市らしさの源泉です。</p> <p><b>【大柱1】</b> 気候変動の要因となる環境負荷を都市づくりの観点からも減らしていきます。また、災害級の暑熱にも都市づくりの観点からの対策を講じます。</p> <p><b>【大柱2】</b> 市街地開発などが進む中であっても、朝霞市らしさの源泉であるみずやみどりを守ります。また、豊かなみずとみどりは守るだけでなく、つくり育てることも重要です。都市が更新されていくたびに、みずとみどりも増えてつながっていく仕組みをつくります。</p> <p><b>【大柱3】</b> 都市近郊でありながら、水と緑に恵まれた朝霞市の景観を市民や事業者と協力しながら朝霞らしい心安らぐ風景を維持向上できるよう誘導します。</p>	<p><b>【大柱1】</b> 持続可能な未来につながる気候変動に対応する</p>	<p>小柱1 環境配慮の視点からも選択できる移動手段の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通の利用促進</li> <li>・シェアサイクル等の環境に優しいモビリティの選択肢の確保 等</li> </ul>
			<p>小柱2 環境にやさしい公共空間の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設の屋上、壁面緑化 等</li> </ul>	
			<p>小柱3 環境にやさしい住宅の整備促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創エネ・省エネ設備の整備促進</li> <li>・長期優良住宅の認定 等</li> </ul>	
			<p><b>【大柱2】</b> 豊かな自然を育みつなぐ</p>	<p>小柱1 生き物が集うみず・みどりの保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川の浚渫</li> <li>・公園の水・緑の維持管理</li> <li>・緑地の維持管理</li> <li>・湧水、河川の維持管理</li> <li>・生産緑地、農地の維持</li> <li>・河川敷の整備、植栽の維持管理 等</li> </ul>
			<p>小柱2 みず・みどりを育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前広場、道路、公共施設等における花壇づくり</li> <li>・街路樹の育成、管理などによる水と緑のネットワークの形成</li> <li>・グリーンインフラによる機能性と環境への配慮を両立した施設整備 等</li> </ul>	
			<p>小柱3 みず・みどりの普及</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑、河川を活かしたイベントの実施</li> <li>・生垣設置の奨励</li> <li>・開発事業等における緑化指導 等</li> </ul>	
			<p><b>【大柱3】</b> 朝霞らしい風景を守り育てる</p>	<p>小柱1 協働による景観づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観についての啓発</li> <li>・景観樹木の募集・指定</li> <li>・景観重要公共施設の選定・管理</li> <li>・景観重要樹木の募集・指定</li> <li>・景観づくり団体の募集・補助 等</li> </ul>
			<p>小柱2 みずみずしい風景を活かした自然景観への誘導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観計画による地域特性に応じたゾーンの指定</li> <li>・景観重点地区の指定、届出制度の運用</li> <li>・景観計画に基づく景観の届出</li> <li>・景観ガイドラインの作成 等</li> </ul>	

(5) テーマ「安全・安心」

テーマ	テーマの目標	「安全・安心」とは (ストーリー)	大柱	小柱	主な取組
安全・安心	災害が発生しても、被害を最小限に留めるとともに素早く確実に復興でき、日常生活のなかで防犯とともに備えができていくまちを目指します。	<p>頻発化・甚大化する自然災害から市民の命と財産を守るには、災害が発生する前の備えと、発生したあとの対処のどちらも重要です。それらを非日常のための対応と捉えるのではなく、日ごろの日常生活のなかで防犯とともに備えておく意識を持って取り組みます。</p> <p><b>【大柱1】</b> 各地で地震や風水害が頻発するなか、災害発生前の備えとして、災害の恐れがある地域の解消や、危険な区域から安全な区域への居住誘導を進めます。また、老朽化したインフラを災害にも耐えられるように更新したり、災害時の被害を拡大させかねない環境にある住宅地の改善に取り組みます。</p> <p><b>【大柱2】</b> 災害が発生したときにも滞りなく避難し円滑に復興できるように、事前対応として防災拠点の形成、避難場所や避難経路、輸送道路の確保に取り組みます。</p> <p><b>【大柱3】</b> 日常生活から「もしも」に備えたフェーズフリー*なまちづくりに取り組みます。もしもへの備えは防犯の観点からも有効です。</p> <p>※フェーズフリー：日常と非常時を区別せず、身の回りにあるものを日常でも非常時でも役立つ考え方</p>	<p><b>【大柱1】</b> 災害に備える</p>	<p>小柱1 災害の恐れがある地区からの脱却</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂ハザードからの移動</li> <li>・水ハザードからの移動</li> <li>・土砂ハザードの解消</li> <li>・水ハザードの解消 等</li> </ul>
				<p>小柱2 インフラの老朽化対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上下水道施設の更新・耐震化</li> <li>・道路や橋梁の更新・耐震化 等</li> </ul>
				<p>小柱4 災害に強い住環境への改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸透性の高い道路整備</li> <li>・防火空地の確保</li> <li>・空き家の解消</li> <li>・住宅密集地の解消</li> <li>・防火地域の設定</li> <li>・建築物の耐震化の促進</li> <li>・建築物の耐火の促進 等</li> </ul>
				<p><b>【大柱2】</b> 災害が発生しても円滑に復興できる準備を整える</p>	<p>小柱1 発災時の核となる防災拠点の形成</p>
			<p>小柱2 避難・救助しやすい道づくり</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難経路の確保</li> <li>・消防車、救急車が通ることができる区画道路の整備 等</li> </ul>
			<p>小柱3 物資や人を運びやすい道づくり</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送道路の整備</li> <li>・輸送道路の無電柱化の促進 等</li> </ul>
			<p><b>【大柱3】</b> 日頃の生活から「もしも」を見据えた環境をつくる</p>	<p>小柱1 日常から災害に備えたまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップ等の情報の周知</li> <li>・植栽と貯水性を兼ね備えた機能の整備</li> <li>・災害時を考慮したベンチなどの導入 等</li> </ul>
				<p>小柱2 犯罪の芽を摘む死角のない環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路や公共空間における十分な照度の確保</li> <li>・住宅地や公共施設における見通しの向上</li> <li>・空き家の解消</li> <li>・防犯カメラの設置 等</li> </ul>
				<p>小柱3 自助・共助の体制強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯・交通安全の取組など日頃の地域活動を通じた顔の見える関係づくり</li> <li>・地域との防災まちづくりの推進</li> <li>・災害時に支援が必要な方を含む地域コミュニティでの連携促進 等</li> </ul>